

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

「芸術」と「創造力」による  
コロナ後のコミュニティづくり

『コミュニティと芸術』

— パンデミック時代に考える創造力 —

横山千晶 (法学部教授) 著

慶應義塾大学教養研究センター選書 / 770円  
(2021年3月)



新型コロナウイルスの感染拡大によって、私たちの日常とコミュニティの在り方は大きく変容した。本書はそうした中で、のストリート・アートやオリンピック・文化オリンピック・アート構想の現状を踏まえつつ、今後のコミュニティづくりの重要な鍵となる「芸術」と「創造力」を考察した一冊だ。著者は19世紀イギリス文化の研究者。ヴィクトリア朝に始まる芸術と生活の融合、コミュニティ構築に果たす芸術の役割を研究し、かつ実践している。私たちは、個人の持つ創造力をどう理解し、発揮していくべきか……クリエイティブの本来的な意味と人間存在の意義を読者に問いかけている。

教職員執筆の新刊

● 藤谷道夫 (文学部教授) 著

『ダンテの「神曲」を読み解く』教育評論社 / 2640円 (2021年2月)

● 木戸一夫 (商学部教授) 著

『補完性の理論』慶應義塾大学出版会 / 2200円 (2021年3月)

● 鶴光太郎 (商学研究科教授) 著

『AIの経済学—「予測機能」をどう使いこなすか』

日本評論社 / 1870円 (2021年4月)

● 島田真琴 (法務研究科教授) 著

『アート・ロー入門』慶應義塾大学出版会 / 3740円 (2021年4月)

● 駒村康平 (経済学部教授) 編著

『みんなの金融—良い人生と善い社会のための金融論』

新泉社 / 3080円 (2021年6月)

● 野村浩二 (産業研究所教授) 著

『日本の経済成長とエネルギー—経済と環境の両立はいかに可能か』

慶應義塾大学出版会 / 3520円 (2021年6月)

## 慶應義塾この一冊

『保険学講義』

堀田一吉 (商学部教授) 著

慶應義塾大学出版会 / 2420円 (2021年2月)



多くの人が加入している「保険」だが、その歴史や理論、仕組みについては意外と知られていないのではないだろうか。著者は商学部で「保険学」「リスクマネジメント論」の講義を担当する。保険の歴史から基礎理論、経済的な性質、金融や市場との関わり、そして企業経営上の課題まで総合的に学ぶためのテキスト。学生だけでなく、仕事で保険に携わる人や保険について詳しく知りたいと考える人にも多くの知見を提供することだろう。ちなみに第2章「保険の歴史」では、福澤諭吉と日本の保険業について触れられている。